

囑托の事

以以七年七月十日農商務省

大臣の令に依りて出たる各ノ事之為

已事ハ由内ノ事ナリト云々ト云々

分科ニ依りて行ハレ

以以七年七月十日

日曜子後出州半古徳真男取男

出立沙の事アリ今州村ハ一沙氏

子氣名根ハ藤屋也也也

西人候を中一志以ハ

七月十日

銀力生切

七月十日銀力生切

七月十日共厚トク皮あり休△

七月三十日

明治十六年乙酉四月十日出勤

去歲十二月十日大阪ニ出ルス支店管理ノ為メナリ

而シテ本年二月十六日帰京ス大阪歸立中

南都西京ニ極メテ日誌ヲ別池ス然ルニ師來

日誌ヲ筆セズ又ニ惰慢ノ罪日誌ニ付セザルヲ

以テ今日ヨリ再ヒ筆ヲ執ルヲ爰ニ約ス

○お絶一月待病病西三日ヤ、快事今日初メ入

活ス考床ヲハナレズ摺本西友多勝ニク成

本人杉田老人ハ今日々診察ス

○昨日金原安修ニ金十四元ハ銀行一斑校

正料ナリ

○本日東京俱樂部ニ金十二四掛フ本年上

羊季ノ金整ナリ

○近頃法來リ金ニ百四ヲ貸シテ法ハルヲ却出

杖ヲ以テ断ル本人ハ曰知モアラス近來頻クニ彼レヨリ

本ん余亦多彼レヲ向ハス然ルニ金取リホムン何事ノ

性恒ゾイブカス

○今筵大松倉来ん

四月十一日出勤 七十七銀行ニテ中島信朱松金物

鑑大トテ争ス茲ハ本月届祀ニテ五十四元ニテ宗是

三月六日 上海の由ナリ

四月十二日 日曜 行維國開國式執行ノ事

ニテ同國、今又 欽大 山東 望丹、山松島ノ事ハ

○真男ヲ連レ上野競進会ヲ之勅ス

四月十三日 出勃

四月十四日 ハ 夕中鳥信本リ 渡食ス

四月十五日 ^{法部} 郵務事務社事

四月十六日 多助 初社方ニシテ 銀券發行

○伊公使館滞リ 借金の也 田中ノ事ハ 之を知ら

後事ノ事ハ 之の如ク 近退ナリ 由ナリ

四月十七日 多助 既分 雨天 梅花 生々

仙臺 大坂 下町 乃リ 越後 瓦、紙 又 社事

占ト 托仙 其ノ事ハ 堂抄ノ 之ニ 協成シ

今夕 日 報ニ 是ハ 天津、電信 使命 全シ

とあり 仙臺 出使、決ニ 好強シ、ト 知ラシ 困

事ノ 大業 事ハ 社方ニ 祝ハシ 存シ

四月十八日 出勃 既分 乃リ 訪フ 先 操 師ハ

着カ 登カ、乃リ 乃リ 乃リ 乃リ 乃リ 乃リ 乃リ 乃リ

老ニ 招

四月十九日 日曜 大伴 乃リ 乃リ 乃リ 乃リ



伊豆大使發祝師録ニ云フの如程
 園前業式由キニ年未済スの邦報
 爲之生ヲ尋又○信也クウ也ニ
 其ニ所ハ○大抵竹ニ金立園者
 并一函面一五尺ハ梅色達稿編集
 〃祝ナリ

下リ徳先生ヲ仰タル特幸奉取リセリ
 先生無聊し梅子ヲ閑談時ヲ移セリ
 其由、以リ璽上御旨許日金四ヶ圓
 ヲ賜ん可ニト由沙汰者タルイ伊豆録

ナリ之也ノ録ナリ梅子ヲ上ニヤ上七井
 ラ以テ其子夕由沙アリタルニ也ニ也之生
 七井ニ養ヒえハ余も養育ナルハ自ラカス
 和シテ各和ヲ丑ハハ此録ニ其マウナリ
 若シムハ余カ自ラカカナレハ御金拾ッ賜ルハ更
 ニ入リタシカ方今日沙討し財取中、困難成
 写御紙、若シム時^時ニ丑ビカハナリ此時
 あり御力取、方々ありナラサハナリ也
 情トスルニ御金ヲ賜フ也甚タ不^不也子
 弟ニ御勤リヤカ云々讀べタレハ七井

五月三日曜 表の成 時之生り
市ノ地を掃上りて其の申トノ事ニ
身相隣 足平匠人又五ノ早年の
馬去り臥れ申費入リ也
五月廿日曜 夕掃本園書ニ移成舎
スル並費の事金決ナリ
五月廿日曜 夕掃本園書ニ移成舎
夕ノ芝公園内幼稚園開業式ニ出
席
五月廿日曜 乾いたる水ニ書テ決ナ

定換居費の内減の事金決り
水ノ一〇外山掃表ノ事ニ
掃本園書テ決ナ 美平右決ナリ
五月十日曜 出動夕掃本園書ニ移成舎
笑り上ノ好抱ナリ
五月十日曜 出動の夜 掃本園書
夫人来ル
五月十三日曜 出動夕掃本園書
五月十日曜 出動の夜 掃本園書
ノ下ニ書テ決ナ 掃本園書ニ移成舎

新由浅ス

五月十日 出物 〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇
セリ入ノ出定ノ由リ事人

五月十一日 出物

五月十七日 出物 〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇
伊達 宗 徳 〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇
仙 臺 〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇
松 竹 〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇
〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇
〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇
〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇
〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇

深也ニ出リ今年ノ子ヲ浅ス

五月十日 出物 〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇
〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇
〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇
〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇

五月廿日 出物 〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇

大和者アリ

金二十日 〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇

金二十五日 〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇

出

五月廿日 出物 〇 佐多 寺 〇 葉 居 東 〇

金銀三平以下仙ノ由ニテ事

五月廿二日出

廿二日出物ヲ凡十五部ノ、新築

祝儀等總額ノ、取立者ハ三条公

方伊藤氏等五人程ノ、北山寺

二回、夕御共電送ルノ、依之、古禮奉

金五丁山也

五月廿四日、真山公、百五、年、余

大井、印、お、と、と、新、浄、入

五月廿四日、出、節、後、志、嘉、温、園、々、丹

相、会、的、於、赤、土、老、の、白、松、林、三、枝、半、飲

又、依、如、ト、お、知、又

五月三十一日、日、曜、の、真、山、公、馬、券、等

左、油、と、ん、身、後、ト、シ、テ、大、井、村、の、如、り

ハ、お、徳、一、反、積、り、の、黒、川、園、奉、ん

六月一日、出、物、ヲ、十、五、部、の、信、社、兩、分、社、總

道、身、社、ト、十一、奉、社、中、台、と、伊、藤、西、北、井、上

六、分、社、ヲ、格、リ、新、築、支、那、ヨ、リ、五、分、社、乾

祝、儀、ニ、シ、後、十、分、上、也、競、馬、今、社、の

ソテリ更ニ申力の興後之定安十斗
等五百石也

六月三日此印宛不列ノ事ニ於テ之交換者
取扱代理正金銀力に依テノ上申書ヲ出ス
知レ此後来不納ラント為ニ由陳之んナリ
ト一寄ナ玉リ神戶出テホノ丁ヲモ河可
別書ヲ出シ○其代出之師坂ノ内ニ由
乞ヤ速ブ

六月四日此印宛夕分信可ナリ
九月廿日此印宛ハナク

格中ニテ幸盤ヤコト云

二月廿日此印宛○口下委託ノ事ニ
大條余方以存進馬出テノ丁ヲ批ス
○大極何二本ん若進書書之云○
此方有書何の洋紙云ト云ク

六月廿一日此印宛○此印宛ノ事ニ
今年○の心計書ハ此翠引換例ヲ先
六月廿七日此印宛 黒川即本ノ口下海舟
先生ヲ以テ之後又紅葉銀之飲ハ月砂
立務終本知此本村 岡ノ口下ナリ

六月廿八日出部 ちんてん銀りてまん
のち後馬お市を甲好中より持戻
徳清の似之

六月廿九日出部

六月十日 丸ちんてん三郎お
トちんてん丸ちんてん出立りて
入部山修造 旗職と持わり酒
煮十りの〇松平のち出立りて
お市お市お市お市お市お市
お市お市お市お市お市お市
お市お市お市お市お市お市

六月十日 出部 三郎お市出立りて
お市お市お市お市お市お市

六月十日 出部

六月十三日出部 振本より丸ちんてん入部
お市お市お市お市お市お市
お市お市お市お市お市お市
お市お市お市お市お市お市

六月十四日出部

六月十五日 出部 丸ちんてんお市

お市お市お市お市お市お市

六月十九日出船 松方ちるのち後
にききえ

六月十九日出船 松平直之助中三郎
所立船屋に飲山事おハ河原系
高之印 皇極殿へお入り奈高系船
共向三夏 蓬舟仲哉ノフラキス

六月二十日出船 後奈高系ヲ訪フ事
書面ヲ残ス事ハ共向三夏仲哉ニ
カク信スフ切ナニ云ナリ

六月二十日

六月二十日出船 初松本洞寺書
夜更

六月二十三日出船

二十四日出船

二十五日出船

六月二十七日

六月二十七日 松方ちるのち後
にききえ 皇極殿へお入り奈高系船
共向三夏 蓬舟仲哉ノフラキス
書面ヲ残ス事ハ共向三夏仲哉ニ
カク信スフ切ナニ云ナリ

きりふのりて
うりて二十の出勤

午後旧友金澤良高三回忌二月紅葉鉞

ニ被控

七月一日出勤 札井と外勢へ出勤ニ及
共同辨争 袖和ヲ流ス次ヲ意良至ド
き出ス

七月二日出勤 夜伊達宗高
手ん金四十四石み

七月三日出勤 帰途木村信口ヲ初フ

黒川一而日中停船由ニ付見五ナリ 山縣内
勢々も各札ヲ投ス

茲善ノ賄賂ノ了

昨年以ヨリ控門差取ノ主人ヲ命メ主人意
善身ト云フヲ催シ麻崎鉞ニハカリヲ聞キ
金欠ヲ募集シ私立ノ病院ヲ初メ多ク之
ヲ賑サントスルニ意ヲ至テスル一二ノ人アリ之レ
海外ノ輸入策ナレバ海外ノ善仁ハ宗教ノ本
心ヨリ起ルモノナルニ其本ヲ控メス早ニ其

皮相ノ輸入ナレハ其弊已ニ賄賂ノ一具トナ
リタルアリ又賄賂ニ至ラサルモ其他中ニ入
ルノ但ニヒサレハ其丈人ノ郎ニ出入モカス池ハガ
ルノ心地ニテ非常ノ困難ヲ被ソ出金スル者アリ
千状第此聞ク厥フ事共ナリ
昨年ハバコーノ醜態ハ彫ク荷セズ以今又
一往ノ意善喜ヲ唱道多ク疾病丈ニ學校設
立ト云フ例ニヨリ夫丈人ト自唱スルモノ共四
方ニ迄テ出金ヲ促スナリ之レ多クハ都下ノ商估
ニ因テカハ可ナラズ奸商ハ事ノ實察ヲ

賛奉シ夫丈人ニ贈ルニ巨金ヲ以テス因テ
花門中事士ノ内部ニ迫ラクハ此ヲ以テ大ニ
哀ブアリ然ルニ甲丈人殿紳士ニ向テ御ヒ
丈人ニ若干金ヲ取指セシメタル由ニ妾ノ暮方集
金未クハ丈人ノ如クナラズ清ク妾ノ暮方集ニモ
亦助勢アラシトテ妾ト依シ紳士又若干金
ヲ出ス而丈人モ亦之レ曰等ノ言アリ又若干
金ヲ出エテ妾テ一千金ヲ費セモノアリト聞ク
是レハ必ラズシモ此出金ヲ懸信スルノ策ヲ
此貴丈人等ノ内部ニ奉ルマ必セリ所勢

此ノ如クナルハ賄賂ノ弊便ニ劣カラカニ
其ノ実又言ニ恐ヒサルモノアルヲ聞クハ
トナリタリ時

奈良原事ハ為テ異ニ此ニ置キタルニ其友
共曰而社辯争ヲ和ノ件 而社合併ノ
由約略油ヒタル性況ナレハ各々手ヲ下エテ
ハスト云フ由約整タル上ハ外部ヨリ味ヲ入ルニ及ハズ
其結果如何ヲ傍観スルハ共曰ワ彼ニエスル以テ
之旨令マセ虚ナリヤメ今日合併チトハ不子際子
萬ノ策ニメ一令社ノ手挽ヲ束縛シ而メ海島ヲ

自由ナラシムルノ事ハ及ニ云テ是キタリ筈ナ
信々ニ他ニ兼ナキニラスヤ人ノあスルナリ
吾等ノ業ハ亦あ産女子出生ト云フ

七月四日

七月五日 曜 御社中ノ功ヲ

里川ノりセ

七月六日 出動 伴達未元人等ニ及リ
登之来ノ帰ルルト云フナリト云フナリ
母子ノおノ田舎由領ニ住ルルナリ

七月十二日 曜 梅雨初降ん。安田善
録四身之後、社倉奉り、三浦功元者
痛口ヲ尋又の大槻之房奉ん、又田分
奉んの夕、性志生カ切
上海梅口者一ヨリ奉ん、に不儀玉城
内老北門内馬公館
七月十三日 出船 大池榎奉ん、
西人此人等、洋田着士等、
会録之、奉更ナリ、
副出ニ以テ奉ん

七月十四日 出船 金子許平一奉ん
七月十五日 出船 船名比嘉、奉り、
船中ノ中、副榎城、
七月十六日 出船 船名比嘉、奉り、
船中ノ中、副榎城、
淡々向ヒ、
ラ、
七月十七日 出船
七月十八日 出船
たん、

予を師と爲す事四十年にして年々々り
能く字を學ぶ計亦あり由法ヲナス
予は定例分金ノ子に由り得る事由
口々傳へ上り來し如しとアリ
○此處迄は是れ是れ今既知也
入平ノ由也此下リスルを一徳至日
セを一ノ代料也國在ナレハ路と也又
不也此ハテ五岳の畫障一也此後
七月十日の日照 三ヶ月おふ
多々思惟シテ其言自由チラ

又揚本と推せり也又んと咽喉
カタルニテタシマリテ以て爲す歎
ム

七月二十日出節

七月二十日 出節 名花秀瑞連
畫之ニ系結ヨリと松柳揚柳
芝梅の如し

七月二十二日出節 喉
こと業ヲナス

六年

八月一日数日未詳此ヲ誤ん病倚アル

アリス暑多クテ暑ヲ多クシテ夜中

軍舎大燈下ニ因ん此ハサレハナリ

出節

八月二日日晴腸之生ヲ河津田仙と云

因益迫ん依下之生ヲ依礼之ニ座ヲ要

却てテ成ノ我事ヲ終テトス依テ先

生ニ由成スノ若信明ノ多根ナリ

支返ニテ多根

八月三日出節ノ若經真男義男兵根

八十
上
七
時
雨

ト出立ニ隨突志ハ汝慎テ所 宛母つやナリ

キ人上下七名ナリ法堂訃白圖ニ此ナリ

ノ実登ヨリ 宛定ス兵根ハ先ト云方所ナリ

又此ニ孰ハ付出立ハ時四十五分ノ時車ニテ

衆車又神志川ヨリ到止立馬車ニテハ付出

立、由由地所ノ被ス為物ハ先止馬車ニテ被ス

八月四日未詳日雨ノ若經一ハ由多付

小田原ト安着ノ被ス上人ノ出節タナリ

如葉被ニ此外山ヨリ

八月廿日 雨霏微如小日夕方快晴日暮キ
八十歩歩勒の森日人妻の血見キリ初也
公使臺代沙の百餘園九迄又以人主人
の根方定て方立者お経ド中をては
有り本女小田五降海西の中日壬雨天ナレハ
市百ナラシの小畑丁四丁目北番地二平藤太郎
ヨリ本女金銀美考妹之ハ井上孝治
某去炸平止者ノ不知掛 之者之ニ付
掛号の相ヤキん之ハト者モ知ラズ又
井上ノ妻ナレモ知ラズ且井上某女ノ又

儘并候ノ現由之矣しと云フ

八月六日 雨又晴 風位不定 出羽夕林能本大夜ヤ
司麻門病俸状方ナラズ 於 氣治本ヲカフ約ス
八月七日 欠 摺本ヲ述シ 國々内宿俸ハシ提キ
貯金ニシテ 出動 夕林 司モニテ 摺本ヲ侍ツ
七付以 本人貯金ニ曰ク 吐骨 處ナリ方
刺ツトフ 瀬波瓦
八月廿日 出羽雨三方雨等 荒抄抄り 夕林 晴
夜ニ腹スヨキハ十三日 夜相ニ 村田有江ナ
上丹地ニテ 妻ノ 金五ナ田カセト云フ 丑六年モ事ヲ

ス突然まり金たスルモ亦不審ナリ世ノ不與通ナ
故カ別リテカス

八月九日大目者ハ十五夜大杉守夷興業銀行
起ルハ大目官ニ一更矣ヨリ私ニ聞クおナリ地券
の集台已ニ多シ之レヲ控ヤス人法ヲ聞カント
云フ余不知ト答フルノモ海舟先生ヲ訪ヒ
濱田仙傳成ノリヲ内証先生カララ添え、
由ラ改スノ仙臺野豊入レタムニ三四年未ク
鬼着者ス

八月十日申

八月十一日

八月十二日

八月十三日

八月十四日

八月十五日

八月十六日

八月十七日

八月十八日

八月十九日

天晴し日夫キハ十六日午後

聖堂遷す

八月十九日 昨夜 銀太ッワの大丹おト生ル
思生セツカフ又夜ハリ國旗ハ一ニ
フ

七年

八月十七日 出所 夕川上左七印生し

八月十八日

八月十九日

出所

八月廿日

八月廿一日

八月廿二日 大坂より川上より先舟おき館へ

格多大坂に舟を止し中三つおちお会しうれ

八月廿三日 日曜 知久井 角四より上松宮町

寺盤地へゆき

八月廿四日 出所 夜折るこら松岡会

八月廿五日 出所 高岡トウ女土五十三箇の

格多折る区ん

八月廿六日 出所

八月廿七日 出所

八月廿八日 池田を計測再測 浮原へ入 出所

八月廿九日 出所

八月三十日 日曜 杉本へゆき

九月一日 出所 越杉山岩三ヶ表 岡へ入

九月二日 日曜 暑大に強じたり 出所

九月三日 日曜 少雨

九月三日出帆 半夜半雨 夜錦 戸

金子出束ス 小地信 製表三刑法一

逆表刻半リニ部ッ携セキ 逆表〇非夜

松倉車リ 芳屋旋 即所知ッ 包ム故旅整

ヲ欲スセシラ 返リ金 担回ッ云フ

九月四日出帆

九月五日出帆

九月六日 出帆 幸勿 勿由力 勿松 勿

ル 而免 并任 遊日者 勿若也

九月七日出帆 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿

九月八日出帆 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿

小遣 齋譜 一部ッ 水ム 代金 勿 勿 勿 勿

九月九日出帆

九月十日 出帆 小京 伊達 夜寧 勿 勿 勿 勿

石井 ノ 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿

以テ 取 取 取 取 取 取 取 取 取 取

〇 勿 勿 伊 達 寧 承 奉 奉 〇 勿 勿 勿 勿

旅 旅 旅 旅 旅 旅 旅 旅 旅 旅

勿 勿 勿

九月十日 池田 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿

其事一 石居言ノ状返記其ヲ抄方ニ
ニ由律ス○お徳又身ノ口ニス丹
コ所初ノ段抄 三十八段ニ分ニ分たニ
スルニ夜子ヨリ成レ給平抄 夕抄 昇
三十七段五分ノ初こ入り平抄トナシ
一事談ス先ツ輕ニ抄ナラント云フ
ノ事コ

九月十一日出勤○ミサ友共口西社ノ台併
ニ付其同ノ資立座取調ニ付不吉ノ不意ア
リヤテ筋浅起リタルト云フ余ノお見スルニ

ナリ都テ此等ニ在ルモノ自負自奉ノ至ス
おナリ○山京中島地伊寺(寧)初
去也但ム伊寺(基)寧ヨリ送金銀貨
百圓出ル共田次印ニ抄シ送金銀貨
○お徳永傳 輕快ナリ大ニ安ム

九月十三日日曜 吉田ニ市ト山京送金銀貨
百圓ヲ抄ス併テ中島雄伊達寧初下ノ古狀ツ
抄ス之レ寧雄子資金ナリ又基寧ノ口カノ事
ヲ部便ツ報告ス○徳先生ヲ訪フ

後史の詩、新室子簡兼山麗澤秘策ツ

六
松山三部代金三回八十式

九月十四日出勤 而電訪を松方より三葉
公卿に上海横濱を五針人某公儀費六にり
○お辰二時松方印、他田章政ヲ松方由海
アリワ志に事 整理上ノ可ク方以由松方
生家みせしんん父子ノ関係尤甚友、松山岩三市
才也。

九月十七日 松隣 兄出立又○出勤

九月十八日

九月十九日 松方信ト也田来リ訪ラ材勢

徳分汁 調査 高下 多末 松方ノ忠快

お侍人ノ交定リ 論ニ 松方人ハ花序毒六

京場 原田一市 山系 吉本 関 彰 芳 松山

岩三市 河原可保ン 守 系 源 吉 中 ハ 多 快 ノ

列ニ加ハルリ 辞ス

九月廿日 日曜 松方 自立 宿ス

九月廿一日 出勤 ○松方 山岩三市 生ル 也田

忠 忠 政 河 池 ノ 社 ニ 玉 日 本 海 軍 不 可 一 証 也

一七〇年 寺 小 系 加 生 多 人 金 子 徳 取 河 也

三 高 谷 ヲ 〇 為 事 又 海 軍 ハ 子 生 河 也 ノ 人 物 也

四房及内子ヲ置ク此ハサハ人種ナシト云
おれゆゑに立アズラ古の爲に出身此に返りて其ノ
困れに誤し且少配人不足大に後言の以
ノ人知ラズスレシ

九月廿二、

九月廿三、

九月廿四、出舟之後松隣見ト同別荘ヲ訪フ

九月廿五、出舟

九月廿六、出舟下日五代友厚病死ノ報ヲア
リぬ又舟岩隈公園ノ宅ヲ訪フ五代ハ同家

ニテ夜舟中死去スルハセウラテ海濱ヨリ大

坂、送葬ツ送ント云フ五代ハ甚重忠意ニ産

ニステ維新おヨリ外國ノ多忙ヲ早クおりの度中ヲ

統^統同國ヲ唱レタム人ナリオアリテ智識ニ乏シ

又女子識^{ナシ}才カクテ世間ヲ^{セシ}

量レ氏情勢智力足ラレハ其志ヲ達せん此ハス

已レニ適セカル者ヲ惡ムト讎敵ノ如シキト學業ノ致ス

ナラレモ故ニ去人ハ敬シテ是カレル嗜者ヲ好ミ人ノ

下流ニ立ラ欲セス業務ヲ執ルニ學ニ巨利擢取

セントラ曰里ハカおソ一生利益ヲ得タムトテ^{ツチカク}

ヤ死後ノ家計半ニ信成ヲ遺族ニ残スルニ然レモ
為數十年ノ生ツ深ク大ニ悔誤之止紳南ノ英名ヲ
後世ニ残スニ望ムル所ナリ信成天此方子ニ年ツカサバ
ルヲ

九月廿七日日曜 招本時先生ヲ訪フ

九月廿八日出立 夜中報時田山松念主

九月廿九日出立 勅免池田

九月三十日出立

十月一日出立

十月二日出立 真男作夜ヨリ此邪

レ事ナリ午後八時温正ニ于九改七分

ニ就腰湯ヲ入ルニシテウツツ施ス十二分

温正七十三分又ニおしツクニ至ルニ十

八分能ハ一ノ時ありツクノ時四仙

葉人丸ハツキ分金多國ニ了るる海頭切

也ノ由ニ海頭切ニ金ハ百四ツ

片又レモ一ノ時金多ハ直ニ

ステラウルヘツキニ返ス

十月二日出立 真田方此ニ温正三十

ハ五五五分ノ方ニ移田老人ニ遊

皇國集案、此書は、
足

十月十日、
おなり

十月十六日、
大雨

十月十七日、
大雨

十月十八日、
大雨

十月十九日、
大雨

十月二十日、
大雨

十月二十一日、
大雨

十月二十二日、
大雨

少年、
大

十一月一日、
大

十一月二日、
大

十一月三日、
大

十一月四日、
大

十一月五日、
大

十一月六日、
大

十一月七日、
大

十一月八日、
大

十一月九日、
大

六年

水祖安る、電柱ヲやまし返さ

ナリ

十月二十日 出初ハ凡今午出初大松林ニ

車内内湖書池古ろろの道全砂杭五箇お返

〇以人伊加保を遊歴ノ由ニテ、古地七英

書物ヲおテ師ニ直し余ヲ傳し又古物ハ上河

澤、飯温泉坊福田宗禎ニおね毛ノナリ

福田ハ何れ七代匠ヲ業ラス以時ノ宗禎ト古

聖交友ニテ喜也江戶ニ在リ火災ニ罹リタシ

コアリ多村材木ヲ福田ニ依リ買入シタムルノ

ト也ユ

十月三日 天毛節、水祖分給雨午時晴

ル秋晴ナレハ野外道邊ヲ御鞭下約

セ玉ニ雨ニテ不果〇山東氏事ん以テ神

難来ル圍 〇夜々入ノ外勢以テ祖守

ノ始キナレ氏凡郊を不飽

十月四日出初重地子

十月五日 出初凡大雨今迄三雨凡

烈し雨ナレの出初事也事

十月六日秋晴出初の松降無事淨
物ノ由事出果川即ヨリ事虫註事ん
の洞村公市書事早所名の美入白鹿し
松ノ古等一う地物表又西行法師の
サ、塔婆斗真事平一の松ノ生人又ハ二母
院マッ松後モノナリ

十月七日出初の松おろ事活事木生可
こお決久の夕村白一市事んの米園ヤリ十
とろ事虫こ白ッ先をハカホリエー式ふんを
能ち支辰こ停候ノ事ヤハシらんこ紀由約初

ヒタんお高松松事ち立障リ入レ解約
ナリタリマエフ事住事りやを事あノ事ト
思ハル小吏大公益ヲ乱事かんハ事國白契
カ歎息こ

十月八日日曜 事あ事お事名事後事
ヤラ初と神ヤ事ノ事ヲ事入んの勝先生
ヲ初と社入リ事ル〇登米の目生也事信
ヨリ返事事ん

十月九日出初

十月十日 歩初大徳師様ハ秋事ん事法

出牙ノ泣取シノ芳女姫輔長瓊淑川
架橋珍糸子ヲ平御念ニ出牙ノ御ナリ
ト云フノ〇皇幼籠園ノ公使ヨリ園(凱西)
ヲ北十七園五テキ、ラ豊テん

十月十一日出勤〇朝吉井宮内少輔シカ
ヒ眩ハ麻病身ノ四現狀ヨリ突由者ト轉
任ノ身ヒツカニ魚扱ヲ述ヘ少輔ノ云ニ見ラ尋
マイラヒタリ曰マナレ氏尚熟去ノ上ニ返答ス
シトテ到レタリ〇立セヨリ鶴血ノ金銀松
三布ヨリ粟一袋 里川分以鮭ニ尾喰ル

奉りタリ〇夜星松ニ布キキんワギハ為オ子
ニシテ浅智ナリ而ソ自オノ高業ヲ癡シ者付
氏ハノ念多國志有ラ云フ凡伴ヲ字ントの
劫作アリ其物ニハアラカン可シ年ツ出ズ
あま生セ亡ニ属スルナラフ

十月十二日出勤 飯急供基ヲ初也
葛本は友ノ事ツ由流ス〇醬油會社
及本其色川強一オチ川キ、飲ニ夜
お竹道師ん

十月十三日出勤 乾ちりり切フ

十六年

日幸し 廿七日日本京丹波官金私
用、連累あて拘取せしむ。其後保將
にナリ、所置宿中、不次信州金五斗
四ノ子共、結えたる不、是也。田ノ手、地ヲ
大極文彦ヲ、中ノ来ルハ、吾ノ私金ハナシ
又、職者、中ノ保証人、モ、疑おえ、之ニ
中を、一、祀、六、リ、亦、人、直、ニ、来、リ、以、テ、治、事、ナ、リ
お、け、お、お、若、フ、又、午、後、ノ、勅、作、ハ、控、テ、
渡、物、ヲ、金、宗、亦、ハ、勿、廢、聖、モ、無、理、ナ、ラ、又
ヨ、ウ、信、之、意、々、要、ト、方、丸、失、ス、ノ、高、橋、之、儀

今日、汝、来、ト、出、立、ス、彩、橋、ニ、テ、送、別、ス
上月廿四日出、仰、此、橋、ヲ、或、揚、シ、以、テ、
伊、達、社、宿、ヲ、帰、ル、亦、ニ、再、返、儀、ナ、リ
ノ、系、ヲ、托、セ、モ、テ、レ、氏、言、フ、ヤ、況、ニ、托、シ、不、及、合
是、レ、揚、布、ノ、セ、ツ、面、目、ニ、只、時、ハ、勢、ト、云、シ
世、ヲ、復、ル、ニ、中、ナ、ル、ノ、御、柱、存、テ、子、孫、傳、テ、
情、ハ、吳、館、ニ、死、サ、ル、ヲ、人、死、地、ヲ、得、ル、ト、此、ノ
語、ヲ、カ、初、メ、入、リ、四、上、中、ノ、信、成、お、也、ノ、由
ト、決、じ、信、行、お、止、也、一、年、是、ノ、事、ト、云、ス
上月廿四日出、仰、是、川、以、送、出、し

土月廿六日 出所

土月廿八日 出所 乾吉田次郎

伊達政宗ノ周旋 出所 乾吉田次郎

土月廿九日 平日 後幼社園ニ集會ス

西米ハ娼母ノ餘料 乾吉田次郎

土金ノ上ナリ 日曜 坂本所ニ新集

ニ銀行集會 午ノ為 午開成ナリ 只

銀行中ニ交換ス 一キニ形ノ流通モナキ

内ニ已ニ三方圖由外ノ出所ヲ以テ此形ニ染

ラカス 一ニナリ 又開成ナリ トテ頭官ヲ招待

し 向カホノ事 興ニラカキ 又豊平ノラカ

ルハ銀行者ノ思 爲モ亦平ニ此ノ只ノ款ノモ

亦因テ業ノ振 張ラ計ルモ 一カラサンモノ都テ

名 飾ヲ以テ世ヲ油 購セントモ 好高ノ極行スル

ハナリ 余所 振祝ニラカキ 又開成ナリ 又

際ニ及止ホモ思ス

富田錢ヲゆ 池テ曰ス 東京ハ五邦ノ首府ニシテ

政令ノ出ル所 又高業ノ首府ニシテ 貨物ノ

取長ニ所ナリ 故ニ銀行ノ設キモ 亦不

可ク 銀行ノ設キモ 亦不

可ク 銀行ノ設キモ 亦不

理財上
 伊要々ん交換ノ建設ナキハ一大缺典
 然レ今面各銀行諸君ノ精カシク集
 命ヲ設ケラレ交換ノ業務ヲ開カス
 是ニ於テ銀行ノ多業始テ完備ヲ謂フ
 心シ建業既ニ設功ヲ告ケ而般整ハシ
 本日ヲ以テ開切式ヲ執行セらん爾來
 同盟銀行ト聯結ヲ通シ金融ノ疏通
 ヲ計ラバ社毎ノ便益ヲ増進スルヤ疑フ可
 ラス余日本銀行ノ名ヲ以テ此ノ盛典ニ陪
 列スル榮ヲ辱ヒシ聊カ茲ニ祝辭ヲ

コトス

十二月三十日出立御記

池田(國山)おふ改正しおつ松方伯
 此係相、まり司於御地以年ヨリ此ノ道日
 ことり御後ノお國山ヨリ屬エおる御
 ノ名ヲ以テ抄おんらるぬ也也出立し
 たり立ム名

その実彦男

山中一及三

村上長教

中川松左衛門

綿川典

中野元清

池田村之友 一七名ナリ

十二月一日出船 午後安田善次郎ヨリシ象
 守と松三也村子安三画ト共ニ集會ス
 十二月二日出船 午後山内芳秋ヲ望園ニ招ク
 口ガホク出船 午後三ノ岸 阪五ノシラフ
 十二月三日出船 午後直吉男 彩富味ニ赴ク
 つ本村信以 来ん 少也 法 誠 職ノ由 決ナリ
 十二月四日出船
 十二月五日出船 高徳海宿 泊ッ
 十二月六日 日曜 焼栞 為之 生 毒ッ

訪フタ新田國文之函件

十二月七日 出船
 十二月八日 出船 郵船 船 以ニ 主トシ
 十二月九日 出船 上海 大田昇 平 泊リ 奉 乞
 樋口 一ハ 主トシ 船 返 出 主トシ
 十二月十日 出船 船 船 田 正 名 奉 乞
 十二月十一日 出船
 十二月十二日 出船
 十二月十三日 日曜 海舟 之 生 湯 午後 寺 島
 十二月十四日 日曜 海舟 之 生 湯 午後 寺 島
 十二月十五日 日曜 海舟 之 生 湯 午後 寺 島

十月十四日朝板方倍ツ訪ヒ素々銀りこゑし

以安裁おわこ許ヒせん一糸ヲヤホフ

○夜新島之表外國より師ヲ来リ昭々

ニ師ハ由ニテ来テス仙臺ニ一寺構ヲ建シ

テ企テテラセセラん

十月十五日、出ル

十月十六日、出ル船を以テテ訪ヒ東也館

リ、傷リ状況ヲ諒フ又山田可法マツ訪ヒ

ツカヒ係ル許テテテテテテテテテ

十月十七日、出ル

十月十八日、出ル

十月十九日、出ル船を以テテ訪ヒ東也館

十月二十日、日曜、以夜雨寸餘朝曉ハ

○七井ト信ヒ又宮島松一寺ヲ訪ヒテ

白石白筆ノ宝篋　ラニ又ス珍也ナリ

後日必ラス勝候ヲ乞ムナリノ森乃神ヲ訪

フ不直三井ノ新リ金運候ヲ諒スノ指本ヲ

訪フニ也打ト信ヒテ寄所全十圓ヲ返ス○

海舟之生ニ訪シ日暮師ハ○白石之生

若古史通四巻ヲ求ム代テテテテ

三月廿一日出船

三月廿二日出船 大臣官に後大臣大臣三
多公位乃大臣内閣總理大臣存年伯史代
法省卿委々大臣十ん子細つる再此入

三月廿三日出船 夜津難走

三月廿四日出船 夜目安田本ん

三月廿五日出船 六東着、日取り身之後

ヨリ横濱に出候又西村ニ床ハ夜十二時為候
、船アリ船中に出候フ真、出陣也

三月廿六日朝二番後車ニテ吉良ト呼ぶ

出船

三月廿七日日曜

送士取手小集

三月廿八日出船

三月廿九日出船

三月三十日出船 官報ニ出候、若年

灰未由ノ事アリ、尋し追々届ニ至る事又

レ是、何カ十分ナラヌヨリ之依テ也

私等ハ三月廿一月年灰未内仕至る事

此処ニ在候也

麻布町二丁目、本番地

往位、宿、宿、宿

十八年三月廿一日
宮田名中

鐵軒日記

明治十五年六月廿九日
取以十七年
同十七年
日十八年

卷二十三